

だがしや楽校 @ 第41回 鶴岡市子どもまつり

日時：2012年5月20日（日曜日）

会場：中央児童遊園（山形県鶴岡市）

2012年5月20日（日曜日） 晴れ

【だがしや楽校 @ 鶴岡市子どもまつり】

“第41回 鶴岡市子どもまつり”（主催：鶴岡市子どもまつり実行委員会 主管：鶴岡市、鶴岡市教育委員会、鶴岡市青少年育成推進員連絡協議会、田川地区民間教育研究団体連絡協議会、鶴岡市民生児童委員協議会連合会、鶴岡市中央児童館、おり紙愛好会、庄内医療生活協同組合、田川民話の会、鶴岡市学童保育連絡協議会、鶴岡親子劇場、公立保育園給食グループ、公益社団法人鶴岡市シルバー人材センター、生協教育活動センター、山形県自転車商協同組合田川支部、ウォーターワッチネットワーク、だがしや楽校だがしや倶楽部、山形庄内ネイチャーゲームの会、ボーイスカウト山形庄内地区、鶴岡舟番所）が、鶴岡市内（中央児童遊園、中央児童館、小真木原体育館、鶴岡公園、内川ほっとパーク）にて開かれました。

鶴岡市子どもまつりは、「児童が心身ともに健やかに生まれ、育成され、生活が保障され、人として尊ばれる児童福祉の理念を、広く市民に普及されるとともに、子どものつどいを設けて楽しい1日を過ごし、“子どものしあわせ運動”を展開しよう」という趣旨で、鶴岡市内の各関係機関団体が協力して開催するものです。だがしや楽校だがしや倶楽部も、主管団体のひとつです。一昨年より鶴岡の中心部を流れる内川（内川ほっとパーク）にて“内川舟下り”が行われていることもあり、昨年度から、鶴岡舟番所も主管団体に加わりました。

さて、すっかり定着した“鶴岡市子どもまつり”。今回が第41回です。

私（山口）の取材も、今年でなんと7回目となり、筆者にとってもこの時期恒例の活動になりました。今年は2年ぶりに、前夜に開かれた今年最初の“だがしや楽校@山王ナイトバザール”とセットでの取材です。

それでは、“だがしや楽校”を中心に“鶴岡市子どもまつり”の模様をご紹介します。



私（山口）が会場に着いたのは午前9時前です。“だがしや楽校”のスタッフとしては一番乗りです。空を見上げますと、真っ青な空が目一杯に広がる見事な快晴です。でも、この時間から太陽がジリジリと照り付けます。天気にも恵まれたのは良かったのですが、屋外でおみせを開く“だがしや楽校”にとっては、逆につらい感じですが、熱中症が心配になるほどです。

そこで急遽、日よけ用のテントを設置することにしました。だがしや楽校だがしや倶楽部・代表の阿部さんが、昨夜の“山王ナイトバザール”でも使用したテントを山王商店街から運搬し、設置しました。

この間、おみせを開くスタッフの皆さんも到着し、準備に取り掛かります。とにかく暑くなりそうですので、水分補給を忘れずに、体調管理しながら、“だがしや楽校”を開きました。



2つの写真は、児童遊園内、小高い山の頂上にあるジャングルジムからの撮影です。

写真左の中央、藍色のテントが“だがしや楽校”が開かれた場所です。

写真右は月山です。内陸側（山形市）から見た月山と、庄内側（鶴岡市）から見た月山では、だいぶ表情が異なります。

午前9時30分からのオープニング・セレモニーで、第41回 鶴岡市子どもまつりが始まりました。

▽オープニング



オープニングを飾ったのは、キッズダンスクルーA s h によるヒップホップダンスです。
カッチョイイ！！

▽自然の中でたくましく

ボーイスカウト山形庄内地区による野外活動を体験するブースです。今年も立ちかまどでチョコマシュマロ焼きやパン焼きを体験しました。また、ドームテントやハンモックでのアウトドア体験コーナーも設けられました。



写真は、立ちかまどの火の勢いを強めているところと、パンの仕込み風景という、裏方の様子を紹介しています。

▽自然はみんなのともだち



山形庄内ネイチャーゲームの会によるブースです。「自然を楽しみ、自然となかよくなりませんか」というブースで、ネイチャーゲームで遊んだり、イタドリ笛や掲示ボードづくりを楽しみました。時々、イタドリ笛の音が響いていました。

▽石器を作ってあそぼう



石をけずって、矢じり、ナイフ、弓矢、おの等を作っています。弓矢は実際に射ってみます。

▽ザリガニ・ゲットコーナー



鶴岡市青少年育成推進員連絡協議会によるザリガニ・ゲットコーナーは今年も大人気です。なんでも今年は食べ付きが良いそうで、右の写真では左側のお子さんが釣り上げています。聞いてみたところ、「去年は水の温度が低かったので食べ付きが悪く、反省点となりましたので、今年は水の温度を調整しました」とのことでした。

▽ミニトレインにのろう



今回は“ミニSL”ではなく“ミニトレイン”でしたが、それでも朝から終了の午後3時まで『満席』でした。

▽レッツ☆サムライ！！



中央児童館内では、子どもたちに大人気の“木の葉がくれ”と称したチラシプールです。子どもたちは思いっきり、小さくちぎられたチラシを放り投げていました、また、ろくぼくを上り下りする“城に潜入”（秘密の通路）も人気です。

▽あそびの広場



“だがしや楽校”の北隣りでは、大きな積み木やブロックマット、トンネルなどの大型遊具が準備され、子どもたちが青空の下、元気一杯に遊んでいました。

▽昔なつかしい遊び



“だがしや楽校”の南隣りは、鶴岡市シルバー人材センターによる“昔なつかしい遊び”のブースです。輪投げから竹とんぼ、紙飛行機、折り紙、お手玉、そして風車（写真）まで、いろいろな遊びが体験できます。

おやおや、“だがしや楽校”スタッフのYukiさんが“竹馬楽校”を始めました。そこへ同じく“だがしや楽校”スタッフのYoshiさんが加わります。「子どもの頃から竹馬で遊んだ」というYoshiさんのうまさに脱帽です。



それでは、ここからは“だがしや楽校”の様子をご紹介します。この日は、4つのおみせです。

はじめに、だがしや楽校だがしや倶楽部（鶴岡市）のYoshiさんたちによる2つのおみせをご紹介します。この3月、東北芸術工科大学大学院を修了された“だがしや楽校”仲間のYoshiさん、今年度（平成24年度）は鶴岡を拠点に活動しています。

▼えんぴつデコレーション



鉛筆にカラーテープなどを貼ってデコレーションし、自分だけの鉛筆を作ります。



鉛筆やカラーテープなどを準備すれば出来るという簡単な遊びですが、身近な存在である鉛筆を材料にしていますので、大人気となりました。





あまりに人気ぶりに、途中で鉛筆を補充するほどでした。



というわけで、“だがしや楽校”は、こんな簡単な遊びでも良いんです。みんなで楽しくコミュニケーションしながら遊ぶことが“だがしや楽校”ですから・・・。



▼からくりメッセージカード



開くことで瞬時に絵が変わる“からくり絵本”を応用した遊びです。紙をハサミで切り、好きなように絵などを描いて楽しめます。



子どもたちだけでなく、親御さんやご年配の方も、描いたり、ハサミで切ったりして、楽しんでいます。世代を越えたコミュニケーションです。



▼消しゴムはんこでポストカードをつくろう



Yuki さんたち東北芸術工科大学の院・学生さんによるおみせは、山形での“だがしや楽校”ではすっかりお馴染みになった“消しゴムはんこ”を使っの“ポストカードをつくろう”です。



Yuki さん手作りの“消しゴムはんこ”を見ているだけでも「凄いな〜」という声があがっていました。



▼飛び出す絵本をつくろう

鶴岡の“だがしや楽校”では、時々おみせを出してくださるMさん（アート写真印刷）による“飛び出す絵本をつくろう”のおみせです。



どんな絵本ができるのか、楽しみながら作ります。人気となり、途中で材料が無くなってしま
うほどでした。



今年の好天に恵まれた“鶴岡市子どもまつり”。たくさん子どもたちが集い、楽しい1日を過
ごしていましたが、大混雑になったわけでもありません。

“だがしや楽校”でも、ひっきりなしに子どもたちや親子連れなどが訪れていましたが、二重
三重に取り囲まれることはなく、ゆっくり・のんびり・まったりと“だがしや楽校”の雰囲気

楽しんでもらうことができたのではないかと感じました。“消しゴムはんこ”などでは、おかあさんたちが「こういう遊び方があるんだ」と学んでいる様子も見られ、“だがしや楽校”のメンバーと交流する風景が見られました。

それから、あらためて、鶴岡では“だがしや楽校”が浸透していることを感じました。なぜなら、ほとんどの人たちが“だがしや楽校”をご存じであり、すんなり“だがしや楽校”に入っただけからです。

これも、だがしや楽校だがしや倶楽部が長年にわたって活動し続けているからです。

阿部さん（NPO法人公益のふるさと創り鶴岡・理事）が中心になって活動しているだがしや楽校だがしや倶楽部は、庄内地方だけでなく、広く山形県内において“だがしや楽校”普及に努めています。さらには全国をエリアに活動を展開しています。

来る6月には、青森県からの依頼で、青森市内で“だがしや楽校”の普及活動（レクチャー活動）を行うことになっています。

私（山口）は、だがしや楽校だがしや倶楽部の一員としても、引き続き活動を展開していきたいと思っております。

気が付くと、1日中強い日差しにさらされましたので、腕などが見事に日焼けしてしまいました。ちょっとヒリヒリするほどです。でも、このところ不順な天気が続いていたので、青空の下で1日過ごしただけでも、スカッとしました。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター

おきたまラジオNPOセンター